



【編集】
富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies

森林づくりの恵み

森林の手入れをすると、入り易くなるとともに環境も変わり、いろいろと新しいものが見つかります。

先日、グランドの東側で、モリーユ(トガリアミガサタケ)を見つけました。これは、フランス等ではトリュフと並び称されている茸です(ちなみに、インターネットで調べると乾燥物 100g で 5 千円程度の値段が付いています)。昨年、オスカーホームと大学等との協働で手入れした所で、以前はススキが茂っていました。縄文時代の土偶もここで発掘されています。東黒牧の縄文人もフランス料理に舌鼓を打っていたのかもしれないね。秋には、これより北側の松林で、マツタケが生えていないか探すのですが、日本のマツタケに比肩されるモリーユが先に見つかった次第です。

茸については、残雪のある時に見つけたのですが、伐採した切り株からナメコが生えていました。今後、どんどん増えていくといいですね。



下草や灌木をかなり整理した後は、いろいろな若葉が茂り始めており、カモシカをしばしば見かけます。この時期にこの辺りの住人となっているようです。

人が食する若葉としては、フキが茂り始めていますが、ノブキでそれほど美味しくはいただけないものようです。

また、この辺りでフユイチゴも取れるのですが、今年は日当たりがよくなり、かえって実りが少なくなりましたようです。

(文・写真：浜松誠二)